

今回は、日本経済新聞の記事から紹介します。

2年に1度の東京モーターショーが開催中だ。世界的な景気低迷の影響もあって41回目の今回は過去最小規模。海外の乗用車メーカーの出展は前回の26社から3社に急減した。

日本は昨年、自動車生産で世界一だった。にもかかわらず世界の自動車メーカーには日本への期待や魅力がないのか？

建国60周年を迎えた中国が名目の国内総生産(GDP)で日本を抜き世界第二の経済大国になる日は近い。それを先取りするかのように、自動車生産で今年、日本を追い越す見通しだ。

それどころか、新車販売台数でも、米国を抜き去り、世界最大の市場になる公算が大きい。今年には生産、販売とも1200万台前後になるとみられ、新たな「自動車王国」が出現する。

しかし中国の自動車業界の先行きが、予断を許さない事は中国自身が良く自覚している。

中国の自動車メーカーは100社以上あるが、独自技術を持つ企業や有力な部品メーカーは少なく、国際競争力は日米欧に追いついていない。生産台数の95%以上が国内で販売され、輸出は数%に過ぎないのが現状だ。

後発の中国にチャンスがあるとすれば新エネルギー車の開発で先行する事であろう。その芽はある。新興自動車メーカー、比亞迪が典型だ。同社はリチウムイオン電池の技術の優れ、年末には純電気自動車を発売する予定だ。来年からは米国にも輸出するという。商用車大手、北汽福田汽車は年内にも電気自動車「迷迪」を発売する。ゆくゆくは輸出戦略車に育て上げる計画だ。

中国政府は、リチウム資源の埋蔵量が世界最大のボリビアに急接近するなど、官民一体となって電気自動車の分野で主導権を握ろうとしている。米欧も巻き込んだ次世代エコカーを巡る大競争で日本は勝ち残れるか。

設問 1 GDP とは？

()

設問 2 今年には生産、販売とも1200万台前後になる、新たな「自動車王国」とはどこの国ですか？

()

設問 3. 中国自身が良く自覚している、自動車業界の先行きが、予断を許さない理由は？

()

設問 4. 後発の中国にチャンスがあるとすればどのような分野ですか？

()